

2022年3月29日

写) 販売店 各位
需要家各位

三多摩生コンクリート協同組合

技術部



標準配合での試し練りのお願い

拝啓 貴社ますますご清栄のことと喜び申し上げます。

平素は弊協組活動にご理解ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、生コン工場での配合は、「標準配合」と夏期、冬期での季節変動や運搬時間に応じて「修正標準配合（夏期・冬期）」を設定しておりますが、室内での試し練りは「標準配合」での材料温度 $20\pm3^{\circ}\text{C}$ に保つのが望ましい。（添付資料「試験室におけるコンクリートの作り方」）しかし、温度が 27°C を超える夏期および 13°C 未満での冬期は弊協組工場において、室温の確保や材料の過熱・冷却設備がないため修正標準配合（夏期・冬期）での試し練りを要望されても対応が極めて困難になっております。

つきましては、生コンクリートの試し練りは、標準配合で行うことを了承いただきたくお願いいたします。

是非ともご理解、ご協力を願い申し上げます。

敬具

添付資料

「試験室におけるコンクリートの作り方」(JISA1138 : 2018)

試験室におけるコンクリートの作り方

Method of making test sample of concrete in laboratory

1 適用範囲

この規格は、各種の試験を行うためのコンクリート試料の試験室における作り方について規定する。
なお、技術上重要な改正に関する新旧対照表を附属書 A に示す。

2 材料の準備

材料の準備は、次による。

- a) 材料は、練り混ぜる前に 20 ± 3 °C の温度に保つのが望ましい。ただし、試験の目的によって特に定めた温度で実施する場合は、その条件による。
- b) セメントは、品質が変化しないように保管しておく。
- c) 骨材は、粒度がバッヂごとに変化しないように準備する。骨材が分離するおそれのある場合は、2種又はそれ以上の粒群にふるい分けて準備する。
粗細骨材又はふるい分けた粒群は、それぞれ一様な含水状態¹⁾に調整して準備する。

注¹⁾ 表面乾燥飽水状態又はこれに近い状態が望ましい。

3 材料の計量

材料の計量は、次による。

- a) 各材料は、質量で別々に計量する。ただし、水、及び液状の混和剤又は水溶液とした混和剤は、容積で計量してもよい。
- b) 計量は、1回の計量分の 0.5 %まで読み取れる計量器を用い、正確に行わなければならない。
- c) 計量した骨材は、練混ぜまでに含水状態が変化しないようにする。

4 コンクリートの練混ぜ

コンクリートの練混ぜは、次による。

- a) コンクリートの練混ぜは、温度 20 ± 3 °C 及び相対湿度 60 %以上に保たれた試験室で行うのが望ましい。ただし、試験の目的によって特に定めた温度及び相対湿度で実施する場合は、その条件による。
- b) コンクリートは、ミキサを用いて練り混ぜる。
- c) コンクリートの1回の練混ぜ量は、ミキサの公称容量の 1/2 以上で、かつ、公称容量を超えない量とする。
- d) 練り混ぜるコンクリートと等しい配合の少量のコンクリートをあらかじめ練り混ぜ、ミキサ内部にモルタル分が付着した状態としておく。各材料は、なるべくコンクリートがミキサに付着しないような、また、速やかに均一となるような投入順序で投入し、均一となるまで練り混ぜる²⁾。